

## H-19 糖尿病を合併した難治性創傷に 対する高気圧酸素治療の有用性

永井りつ子<sup>1)</sup> 金城佐和子<sup>1)</sup> 喜納美津男<sup>1)</sup>  
小浜正博<sup>1)</sup> 新垣宣貞<sup>2)</sup> 金城幸雄<sup>2)</sup>

〔沖縄南部徳洲会病院〕  
1) 高気圧治療部  
2) 整形外科

我々が、2001年6月から2002年7月までの1年2ヶ月の間に軟部組織の潰瘍や感染性壊疽を伴い高気圧酸素治療を行った症例は52例であった。その内訳は皮膚潰瘍24例、壊疽17例、壊死性筋膜炎6例、ガス壊疽2例、その他3例であった。これらの難治性創傷患者の合併症としては、糖尿病が21例、血液透析中の腎不全が7例、うっ滞性静脈炎・静脈瘤が4例、閉塞性動脈硬化症に起因する末梢血管障害が2例であった。糖尿病合併の難治性創傷21例の内訳としては、壊疽13例で、皮膚潰瘍4例で、壊死性筋膜炎2例、ガス壊疽1例、脊髄損傷後の褥瘡感染が1例であった。

創傷治癒を遷延させる局所の要因としては、創部周囲の末梢循環不全と感染の併発がある。糖尿病合併患者では、動脈硬化症に起因する末梢血管障害や免疫能の低下が見られ、創治癒が遷延する。このため当院では、早期に高気圧酸素治療を開始している。高気圧酸素治療の効果としては感染抑制、コラーゲン合成、血管新生、上皮化の促進があり、創傷治癒に対して有用な治療手段と思われる。今回、糖尿病を合併した難治性創傷に対する高気圧酸素治療の効果について検討したので報告する。